

教材4・(1)

《てびき》 文学的文章を読む力を付けるには

文学的文章、特に小説や物語は、作品に登場する人物の性格や心情を表現から読み取り、作品がもつ世界観を味わいながら、作者から読者へ投げられたメッセージを受け止め考えるところに、読む楽しみがあります。文学作品を読むことが好きになる、…それが文学的文章を読み解く力を付ける何よりの近道です。

《ポイント》 ここでは小説・物語について取り上げます。

1 作品世界(設定)の理解

こんなところを気にしてみよう!

「いつ」「どこで」「だれが」「だれと」「どうした」…意識していなくても、小説や物語は、これらを意識しながら読んでいきますね。作品世界を理解する基本です。その中でも…

登場人物の把握: 誰が出てきているか。誰がその場面の中心人物か。

場面: 時間の進行や場所の変化等からつかめます。

中心となる出来事: ある事件や事態をめくり物語は展開します。

2 主人公をはじめとする登場人物の心情の理解

小説・物語で登場人物の心情理解はキーポイント。こんなところに着目してみよう!

心情を表す語: うれしい。かなしかった。

会話文: 「もう、勝手にしなさい!」(怒り)

心情を表す動作や行動の描写: 「軽やかな足どりで家路についた。」(安心・喜び)

登場人物の表情や態度の描写: 「まゆをひそめた。」(不愉快)

天候や風景等の情景の描写: 「突然、川の流れが急になった。」(何かよくないことが起こる暗示)

3 登場人物の人物像(見た目や性格等の「ひと」と「なり」)をつかむ

どんなところに着目すればいいの？

言動・行動等の描写から人物の性格を把握：「彼はいつも集合時間の五分前には必ず来ていて」(几帳面・まじめ)

4 大きな出来事に注目する

登場人物の心情は大きな出来事や事件を通して変化する。

出来事や事件の前の様子や心情はどうだったか。

出来事や事件の中で、どんな経験をしたか。

出来事や事件のあと、登場人物たちは以前と比べてどう変化(や成長)したか。

こうしたことが読み取れると小説や物語は楽しくなってくる。

5 作者の意図や表現の仕方について考える

作者はなぜこの作品を書いたのだろうか？

作者が作品に込めたメッセージを読み取れるかな？

表現の仕方によって作品世界の伝わり方は変わる。

書かれ方や作者の意図について批評してみよう。

6 読んで感じたことや考えたことをまとめて書いてみる

小説や物語を読むことは、未知の世界の疑似体験ができます。読後の感想や、登場人物や作者に対する自分の考えをまとめること、それを友達と交流させることは、自分の世界を広げることにつながるよ。

